

LAKANG SA KALUWASAN SA KATALAGMAN (Steps Towards Safety From Disasters)

フィリピンのセブ事業ビデオの1シーン (フィリピン)
A scene from the short video of the project in Cebu (Philippines)

要約

- ミャンマーでは、ワーボチーボ村の学校兼シェルター建設と、オンライントレーニングが始まりました。
- フィリピンでは、3年間実施したJICA草の根技術協力事業が終了しました。
- バングラデシュでも学校に対するオンライントレーニングを開始しました。

Summary

- The construction of a school-cum-shelter in, and online training for the people of, Wa boet Chin boet village in Myanmar has started.
- In the Philippines, the JICA-funded grassroots technical cooperation project concluded its three-year implementation.
- Online training for the partner school has commenced in Bangladesh.

目次 Contents

ミャンマー	2
フィリピン	4
バングラデシュ	6
Myanmar	8
Philippines	11
Bangladesh	13

【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413

EMAIL rep@seedsasia.org

WEBSITE www.seedsasia.org

FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe 658-0072



ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

3月1日にエヤワディ地域ヒンダグ地区ワーボチーボ村を対象とした「ヒンダグ地区における学校・地域防災支援事業」の第3年次を開始しました。しかし、ミャンマーも新型コロナ感染拡大の影響を受け、国内の厳しい移動制限が始まっており、ヤンゴンの現地スタッフはリモートワークの中、インターネットを活用しながら住民や教員向けの研修・協議を実施しています。また、第2校目となるシェルター機能を備えた学校の建設現場では未曾有の事態の中、万全な感染予防・拡大防止体制で、工事を継続しています。以下、4月から5月の活動を報告いたします。

ワーボチーボ村の教員と住民向けオリエンテーション

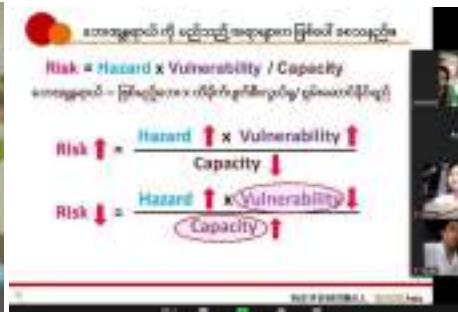
4月22日と25日、事業実施に関わる関係者が共通の目的を共有し、協力していくためのリモート・オリエンテーションを、ZOOMを用いて実施しました。事業の中心を担う学校教員や村の代表者延べ24名の参加の下、事業目的や内容、今後のスケジュールを協議し事業実施における約束事を決めました。また、SEEDS Asiaのミャンマーにおける12年に亘る過去の活動についても紹介した他、プロジェクト資金がODAの一環であることを踏まえ、事業で目指す姿や事業終了後の管理責任について共通理解の確立を図りました。

防災研修の開始

本事業では学校兼シェルター建設というハード面での防災を進めると共に、災害対応能力強化に向けた防災研修と、村と学校の防災計画策定支援を行っています。5月7日には、第1回研修として防災の概念の基礎や用語の理解を深める講義を行い、翌日には第2回研修として実際に身の回りのリスクを発見する「タウンウォッチング」を各自で距離を取りながら実施しました。防災に関する知識を測るクイズでは研修前の正答率が69%でしたが、研修後は87%に上昇し、参加者が研修によって防災知識を習得したことが確認できました。さらに、5月31日と6月1日には、前回の研修で学んだ防災用語をベースに、身の回りのリスク認識をより深め、計画に繋げていくコミュニティ防災の基礎研修を実施しました。ワーボチーボ村で過去に発生した災害を共有する時間では、毎年雨季に発生する洪水の他、エヤワディ河の浸食、サイクロンに加え、年配者から竜巻などの局地的な気象系災害の経験が共有されました。衛生的な水やトイレが整備されていない環境では雨季に浸水するため下痢や蚊を媒体とするデング熱なども報告される中、新型コロナウイルスなどへの恐怖が口々に語られました。参加した住民や教員は、災害被害を生み出す誘因としての自然現象（ハザード）が、地域の弱み（脆弱性：vulnerability）によってそのリスクを増幅させること、また一方で地域のリソースを含めた強み（capacity）を強化することでその損害を減らすことができることを学び、「これからの研修を踏まえて、身の回りの様々なリスクに備えていきたい」と今後の研修への意欲を高めていました。



ヒンタダ教育長からの冒頭あいさつ



ハザード、脆弱性、キャパシティ
と災害リスクの計算式



タウンウォッチングにて作成した
ワーボーチーボ村のハザードマップ（今後加筆予定）

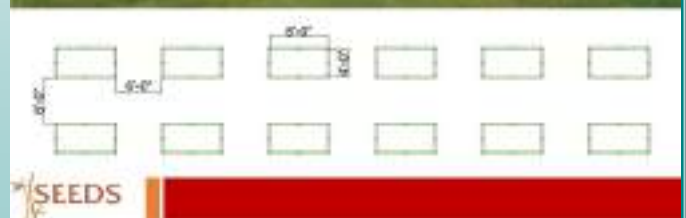
コラム：学校兼シェルター建設現場でのコロナ対策

ワーボーチーボ村での学校兼シェルター建設現場では、総勢50～60名の現場作業員が働いています。

ミャンマーでも新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されており、コロナ禍でも建設を継続していくためには建設現場での感染予防と拡大防止策が欠かせません。

そこで、一般的なマスクの着用、手洗いと消毒の励行と共に、私たちは労働者の域外との移動を制限し、例え感染者が発生してもウイルスの拡散を防ぐ策が必要であると考えました。というのも、ミャンマーの建設現場作業員は1つの空間で3密状態になって寝食を共にするか、近隣の町に宿泊して現場に通うことが通例となっており、ウイルスの持ち込みと拡大のリスクがあるためです。そこで、現場作業員が感染しない・させない策として、竹構造の簡易宿泊施設を付設し、現場労働者の個別空間を確保することにしました。

設計は、スフィアスタンダードに基づく1人3平方メートルの床面積とし、7月に始まる浸水に備えた高床式で家屋と家屋の距離も2メートルの間隔を空ける配置としました。現在は50棟を建て、できる限り新型コロナウイルス対策をおこない、事業地へのウイルスの持ち込み防止、感染拡大防止策をとりながら事業を継続しています。これからも校舎と避難棟の安全な建設を心がけて参ります。



作業員のための簡易宿泊施設



フィリピン

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

JICA草の根技術協力事業

事業ビデオ完成

セブ州でおこなってきた学校防災管理事業の内容をまとめたビデオが完成しました。このビデオでは、事業を通じてパイロット校が達成した成果を紹介しつつ、安全な学校を実現するためのステップを紹介することで、パイロット校以外の学校が防災管理を実践できるよう工夫しました。3年間の事業の成果を是非YouTubeにてご覧下さい！



パイロット校の防災マニュアル印刷完了



学校防災マニュアルとEdar氏

事業でセブ州内の10の地区から選ばれたパイロット校は、3年間の事業期間で安全点検マニュアルと災害対応マニュアルの作成に取り組みました。マニュアルの完成に向け、まずは様々な関係機関の職員が参加したオリエンテーションを開催し、その後ドラフト版の作成、そしてドラフト版を用いた試行を踏まえ、最終版の作成に至りました。セブで発注したマニュアルが刷了したため、教育省第7地方事務所にお持ちし、同事務所の防災管理コーディネーターであるRanilo Edar氏にお渡ししました。また、セブ地域の都市封鎖を受け一部は日本で印刷の上、現地に配送することとなりました。日本版も随時学校に届けます。

学校の防災マニュアル



学校防災管理事業終了

2017年4月から活動を開始した、セブ州でのJICA草の根技術協力の学校防災管理事業が6月末に終了しました。この事業では、学校防災管理を指導するチームの育成、防災管理のガイドブックとしての運営指針の作成、パイロット校での安全点検の実践と関係機関との災害対応手順の確立、総合防災避難訓練の実施、そしてその成果の共有といった活動を3年間かけて実施してきました。

事業終了時には成果報告会を国レベルカンファレンスとして開催する計画でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け延期が重なり、事業期間中の開催を見送ることを決定しました。最後に関係者の皆さんに直接お礼を申し上げることができず残念でしたが、運営指針や、学校が作成した防災マニュアル（安全点検マニュアルと災害対応マニュアル）を活用して、セブ州の学校が防災管理を推進していけるよう、願っています。

改めて、事業実施中には、たくさんの方々にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。今後もアジアの防災に取り組んで参りますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市民的な意識啓発を目指します。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

モデルアカデミー校でオンライン研修実施

本事業では、学校を中心とした地域の災害対応能力向上モデルの確立のため、モデルアカデミーという学校をパートナーに、まず同校の学校運営委員会という組織に対して防災研修を実施します。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月17日から国内全ての学校が休校となり、学校を直接訪問して防災研修を実施することができなくなったため、代わりにオンライン研修を実施することにしました。6月25日から毎週木曜日と金曜日にオンライン研修（計8回）を実施し、教員や保護者を含めて15名の方に参加していただいています。

第1回の研修では、学校防災の重要性、防災の基礎用語と基礎概念、バングラデシュ・ダッカ・地域の災害の歴史についてのセッションを行いました。オンライン研修は初めての取り組みなので不安はありましたが、先生方のご協力のおかげで無事に終了することができました。翌日の第2回の研修では、本事業のカウンターパートである北ダッカ市から土木部気候変動・災害管理部門の主任技術者であるタリック氏を講師として招き、北ダッカ市の防災への取り組みや学校防災について講義していただきました。また、気象災害（熱波及び寒波、雷雨、洪水）の基礎知識のセッションも行いました。1回目比べて2回目は、お互いの緊張もほぐれ、参加者の積極的なディスカッションが見られました。「災害が起きてから対処するのも大事だが、防災・減災がより重要だと分かった」や「災害に関して今まで深く考えたことがなかったが、これを機に防災の意識を高めていきたい」といったコメントをいただきました。

日時	内容
7月2日	バングラデシュの防災関連法、都市型災害（火災）
7月3日	都市型災害（冠水、地震）
7月9日	都市型災害（大気汚染）、防災活動の取り組み
7月10日	学校防災委員会の組成
7月16日	雨水タンクと消防用ホースの使用法、消火・消防の基礎知識
7月17日	救命講習、デモンストレーション
学校再開後	まちあるき、実地訓練

今後の研修は上記の通りです。新型コロナの感染拡大状況に応じて、オンラインと実地のトレーニングを組み合わせる予定です。



オンライントレーニングの様子

コラム：バングラデシュのスイーツ ～ドイ（バングラデシュのヨーグルト）～

バングラデシュのヨーグルト「ドイ」は、スーパーではプラスチックの容器に入って、また路上のお店では素焼きの器に入って売られています。値段は大きさによって違いますが、日本円で約30円から200円です。日本のように色々な種類の味はなく、プレーンのみですが、味は酸っぱい、甘酸っぱい、甘い、と分かれています。日本のヨーグルトと比較して、味は濃厚でクリーミー、食感はプリンのような感じですよ。例えて言うならば、ヤクルトみたいな味でしょうか。

みなさんもバングラデシュにお越しの際は、ぜひ食べてみて下さい！



ドイは路上では素焼きの容器に入って売られています



Myanmar Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness

Funded by Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

The COVID-19 pandemic has disrupted our daily lives, but DRR and resilient communities are still an ongoing priority for Myanmar!

We commenced the third year of the “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township” project on 1st March, targeting Wa boet Chin boet village. Since Myanmar is still facing the COVID-19 crisis and has been imposing travel restrictions, SEEDS Asia members in Yangon have been working remotely using online platforms to provide training for, and had discussions with, village residents and teachers. One additional school-cum-shelter is now being constructed in Wa boet Chin boet village, besides the one built in Nabekone village, with strict on-site precautions put in place against infections and spread of the COVID-19.

Orientation for teachers and residents of Wa boet Chin boet village

On 22nd and 25th April, an online orientation for teachers and residents of the Chinboht village was conducted in order to establish a shared goal of the project’s implementation. A total of 24 stakeholders participated via ZOOM and discussed the project purpose, activities and schedule, and came to an agreement on rules about their involvement. SEEDS Asia’s 12 years of continued activities in Myanmar was also introduced, and the responsibilities of the stakeholders for the project’s sustainability after the project completion were emphasized, since this project is funded as part of Japan’s Official Development Assistance to Myanmar.



Opening remarks by Township Education Officer, Hinthada Township



Disaster risk formula



Hazard map of Wa boet Chin boet village (initial draft) based on the town watching exercise

DRR capacity building training kickoff

The project aims to strengthen DRR hardware infrastructure components of the village/school by constructing a school-cum-shelter. It also focusses on human infrastructure through DRR capacity building/training, and support for disaster management planning of the village and the school.

On 7th May, the first module of the training program was delivered online to enhance the understanding of the village residents and teachers about the basics of DRR concepts and terms. The following day, “town watching” exercises to identify risks in their surroundings was conducted as a part of the second module (social distancing and other measures were in place during the town watching exercise). Increase in the participants’ understanding about disasters was confirmed through an exam taken before and after the training, with the percentage of correct answers rising from 69% to 87%. This was followed by a module on community-based DRR to connect their understanding about the basics of DRR terms and surrounding risks, to actual planning, conducted on 31st May and 1st June.

The participants also learned about past disasters that struck the village, such as annual floods in the rainy season, erosion of the banks of the Ayeyarwady River and cyclones. Elder residents shared their experience of localized weather disturbances and patterns, including tornados to younger audiences. The participants shared their concerns about their vulnerable facilities that could easily be affected by floods and cause health risks such as diarrhea and dengue fever, and about the threat of the more recent COVID-19.

However, through the training the participating residents and teachers came to know that the impacts of just hazards (natural phenomena) could become much greater when combined with vulnerabilities (weaknesses) within a community, while the impacts can be reduced by strengthening their capacities, including local resources of the community. They commented – “I am determined to prepare ourselves to risks that surround our life” and showed their willingness for further learning.

Preventive measures for COVID-19 at the school-cum-shelter construction site

A total of 50 to 60 workers have been involved in constructing the school-cum-shelter in Wa boet Chin boet village. Myanmar is also exposed to the risk of expansion of COVID-19 infection, thus steps to prevent infection and expansion were strictly put in place in order to continue the construction.

In Myanmar, it is common practice for all construction workers working on a project to stay on the site itself, in temporary shelters, to build the structure (or in an accommodation near the site and commute every day). Such conditions could increase the risk of the COVID-19 pandemic through the three-Cs (closed, crowded places that put people in close-contact with each other). Therefore, aside from basic preventive measures such as wearing face masks, hand washing and sterilization, SEEDS Asia also decided to restrict the travels of the workers going outside the site area to prevent the spread of the virus in case infection occurs among the workers. Additionally, temporary bamboo houses were built where workers could be individually accommodated.

The bamboo houses provide three square meters of floor space per person which follows the Sphere Standards, and are elevated to avoid inundation during the rainy season which starts in July. Each house is two meters away from one another to ensure physical distance. With the 50 houses completed and as much effort as possible to prevent infection to the virus, the construction is now ongoing. We hope to continue the safe construction (from disasters and the COVID-19 pandemic!) of the school-cum-shelter.



Temporary bamboo houses for construction workers



Philippines

Enhancing school-based disaster risk reduction and management

JICA Grassroots Technical Cooperation

Project's short promotional video released!

A short promotional video featuring SEEDS Asia's school disaster risk reduction and management (DRRM) project in Cebu Province is now uploaded on YouTube. This video not only introduces the outputs achieved at the project's pilot schools, but also explains the step-by-step practices that other schools can apply in order to make their schools more disaster-resilient. Please have a look!



DRRM manuals for pilot schools

The ten pilot schools selected in Cebu Province have worked on producing their "school disaster mitigation and preparedness manuals" and "school disaster response manuals" throughout the project duration during the past three years. Their manual-making process began with an orientation where different stakeholders participated, followed by draft-writing, then pilot-testing of the draft, and ended with their finalization. Some copies have now been produced in Cebu Province (after long suspension of operations of the printer company due to community quarantine), so SEEDS Asia was able to deliver them to Department of Education Region VII, and to Mr. Ranilo Edar, the DRRM Coordinator of the Region. All of the manuals were to be printed in Cebu Province for distribution locally to the schools, however, due to the suspension of printing in Cebu for a few months, SEEDS Asia and JICA decided to partially print the manuals in Japan, and ship them to schools in Cebu. The copies from Japan will be delivered soon.



Mr. Edar with the manuals




Cover pages of the manuals

Completion of school DRRM project in Cebu Province

The school-based DRRM project which started in April 2017 was completed in June 2020. This three-year project comprised of activities such as formation of an instructing team, development of a guidebook for school DRRM, establishing regular safety inspection as well as disaster response protocols and conducts of disaster simulation exercises at pilot schools, and sharing of the outputs of those activities.

The final conference to share the results at the national level that had been planned to conclude the project was postponed and eventually cancelled due to the increasing number of cases of COVID-19 and preventive measures taken against it. Thus the project concluded without the final conference and a chance for SEEDS Asia to thank all concerned in person, but it is hoped that the project outputs such as the School DRRM Team Operations Guideline as a general guidebook and pilot schools' disaster management manuals (disaster mitigation and preparedness manuals and disaster response manuals) as practical references will help schools in Cebu Province in promoting their DRRM initiatives in the future.

We would like to take this opportunity to say thank you to all who supported us in the project implementation, and would appreciate your continued guidance on our journey towards resilience in Asia.



Many thanks for the three years!



Bangladesh

Safe community development through empowering youth in disaster prone areas

SMBC Volunteer Fund

Online DRR training for selected teachers at Model Academy

This project aims to enhance the DRR capacity of schools and communities, and the Model Academy in Dhaka was selected as SEEDS Asia's partner in establishing good practices of such initiatives. The initial planned activity was to capacitate the School Management Committee to cope with disasters. However, due to the outbreak of COVID-19, all educational institutions in Bangladesh have been closed since 17th March until the end of August and school visits were not possible. Therefore, online training sessions have been held every Thursday and Friday since 25th June. A total of fifteen persons including teachers and the students' guardians were selected to participate in the eight-day training.

On the first day, participants learned the importance of school-based DRR, basic terms and concepts of DRR, and the history of disasters in the community, in Dhaka, and Bangladesh as a whole. This was the first time that online training was conducted, but thanks to the active participation of the members, it was carried out without any problem.

On the following day, Dr. Tariq, a superintending engineer of Dhaka North City Corporation (DNCC), was invited to speak on the DRR initiatives of DNCC, and disaster preparedness and response in schools. Following his presentation, sessions about climate disasters such as heat and cold waves, thunderstorms, and floods were held. The participants seemed more comfortable this time compared to the first day, and they actively participated in the discussion. Some of remarks shared by the participants were: "I know it is important to respond to disasters after they occur, but I found that disaster preparedness and mitigation is more important.", and "I had never thought deeply about disasters, but I would like to take this opportunity to be more aware of DRR."



Online training via ZOOM

Future training sessions, both online and offline (depending on the COVID-19 situation), include:

Date	Training contents
2 nd July	DRR related laws and plans in Bangladesh Urban disasters (fire)
3 rd July	Urban disasters (waterlogging, earthquake)
9 th July	Urban disasters (air pollution) DRR activities
10 th July	Establishment of School Disaster Management Committee (SDMC)
16 th July	Operation of a rainwater harvesting system and fire hose reels Fire safety training
17 th July	Basic life support Demonstration
After reopening of schools	Town watching Hands-on training using basic DRR infrastructure

Bangladeshi sweets and desserts are super-sweet! - Doi (Bangladeshi Yogurt)

Doi is a yogurt dish available in supermarkets and also through street vendors. The price varies by size, about 30 to 200 Japanese yen or 0.3 to 2 US dollars. Its flavor is usually plain but you may choose from sour, sweet-and-sour, or sweet. Compared to Japanese yogurt, its taste is richer and creamy like the “Yakult” variety, and texture rather similar to milk pudding. When you visit Bangladesh, you must give it a try!



Doi sold on the street are in clay pots